

奈良県広陵町職員 防災研修会(クロスロード) 開催報告

I 日 時：令和元年6月25日（日）10時00分～12時00分 13時30分～15時30分

II 場 所：広陵町役場 3階大会議室

III 主 催：広陵町

IV 講 師：（ファシリテーター）NPO法人都市災害に備える技術者の会

理事長 伊藤東洋雄

（コメンテーター）NPO法人都市災害に備える技術者の会 副理事長

（神戸防災技術者の会）

片瀬範雄

V 対象者：広陵町 担当職員 計70+担当者数名

VI クロスロードゲーム参加者数

午前班—10時00分～12時00分 39名

午後班—13時10分～15時10分 31名

VII クロスロードゲームの問題とコメント内容

第一問 あなたは一共稼ぎの夫(妻)。母(足腰弱い75歳)、夫(妻)、幼稚園児、乳飲み子の5人家族。未明に震度6強の地震発生。辛うじて家屋の被害は軽微で、家族も無事だった。防災計画に基づき、夫(妻)は県庁へ、妻(夫)は役場に出動しなければならない。出動したら数日間帰宅できない。出動するか？

第一問のコメント

①当日の神戸市の出勤状況（全体41%（鉄道など被災した中で少ないと判断するか）。

セクハラと考えないで欲しいが区役所の24%と少ないのは女性職員多く、母性本能が強く、出勤率は低く第1戦の人員不足があった）

②地域防災計画で全員出動は有りえないことを前提に対応策を

③広陵町は過去の災害が無いからと言って、安易に考えないで欲しい

④直後の業務は毎日変わることを前提に各部署の応援体制を考えておくこと

⑤異動後は、配属の課ごとに災害時の業務について話し合う機会を持って欲しい

第二問 あなたは一役場の職員。未明に震度6強の地震が発生。辛うじて我が家は倒壊を免れたが、私の周辺ではかなりの倒壊家屋が発生。そして、朝夕挨拶を交わす人たちが倒壊家屋の下敷きとなり、救助を求めている。しかし、私は役場に出動義務がある。救出作業を行う？

第二問のコメント

①直下型地震の場合、数秒で耐震不足の家屋は倒れる。

②防災情報が出てから行動出来るとは考えないで、耐震化や家具の転倒防止を（両親の家屋も含め）

③死亡原因は家屋倒壊の下敷きが83%、焼死が13%だがこれも家屋倒壊が原因、家屋倒壊が無ければ91%は命を落とさなかったかも

④一刻も早く助けることが、クラッシュ症候群の発生を防ぐ

⑤救出にあたり、自動車のジャッキや農機具も有効

⑥家具の固定などしておかなければ、家族が心配では公務員としての業務が出来ない

⑦派手な防災訓練は逆に公共が救助して貰えると思い、近所で助ける気持ちを削ぐし、自

主防災会の訓練はもっと厳しい条件設定で行っておく必要がある（形式だけの訓練は役にたたない）

第三問 あなたは一川沿いの住民。母(80歳)、夫婦、小学生の子供2人の5人家族。
激しい雨が降り続いている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告
が出たことを防災無線で知った。しかし、深夜12時。家族を避難させる？

第三問のコメント

- ①最近の豪雨は従来の常識を超えているし、線状降水帯など未だ発生メカが研究中で、予測手法など出来ていないと聞いている
- ②広陵町も、昨年発生した倉敷市真備町のような天井川が多い地勢であることを認識しておく事
- ③天井川沿いに家屋が増えており、建築時に県と協議をして何らかの対策を講じないと、同じような災害にあう可能性がある家屋が増える
- ④毎年のように変わる避難に対する言葉の意味も充分周知しておくことが大切(今年は5段階の表示が新たに出来ている)
- ⑤住む場所がどのようなところであるか、敵を知ることが大切で、広陵町も佐用町のように農業用水路に落ちる可能性が大であることを認識して、明るいうちに避難を呼びかけることが大切
- ⑥高知県黒潮町の避難訓練の効果の報告

第四問 あなたは一食料配布担当職員。地震のため、電気、ガス、水道などライフラインは全部止まっている。しかし、自宅の倒壊を免れ、避難所に行っていない住民も多い。そのような中、自宅待機している多くの住民が町の備蓄品の食料を配布して欲しいと取りに來ている。備蓄品をわたす？

第四問のコメント

- ①阪神の時の直後の食事や支援の実態報告
- ②奈良市などには報道の多い所には支援が多く、広陵町には支援はない事を前提にして備蓄をしておくこと
- ③町の備蓄など多くないので、頼りにしないことも周知しておく必要がある
- ④小学校単位での対応は広すぎると考えており、小規模の自治会単位で対応することが大切
- ④読むのも苦勞するほど多くの備蓄品が必要とのチラシなどあるが、それより最小限でも個人のローリング備蓄が有効だし、農家もあることから共助より、むしろ近助が大切(向こう三軒両隣を死語にしない)
- ⑤前震・本震があり従来と異なる地震であったが、未だに熊本県益城町の関連死が増えているのはなぜか、考えて欲しい
- ⑥福祉避難所など言葉はきれいが、実際24時間お世話出来る人はいないと考え、普段から使用に慣れている地域センターで自立して貰う体制が東日本では進んでいる事例も出来ている
- ⑦施設に頼らず、付き合いのある近くの人たちが助けることも必要

第五問 あなたは一広陵町の職員。奈良盆地東縁断層帯に起因する震度6強の直下型地震に町が襲われた。町内で100人以上を超える犠牲者が出ている模様。しかし、全員を収容する車が役場だけでは足りない。課長が「誰かワゴン車を提供して欲しい」と言っている。車の提供を申し出る？

第五問のコメント

- ①遺体の事も町の職員の仕事と認識しておくこと
- ②遺体の収容場所も想定しておくこと（3階の会議室に設定などすると、エレベーターが動かず大変な労力を要する）
- ③監察医の検案が無いと、死亡届は出せないなので、事前協定も必要
- ③収容にあたり、神戸では建設業界の協力も得た
- ④災害直後の対応は役場だけでは無理と考え、自主防災組織の訓練において住民だけでなく、建設業界や地域の企業などを含め、訓練をしておくことを考えて欲しい、

VIII クロスロードゲームの『記録表』と『きょうのふりかえり』 別紙参照

IX 写真 下記参照



Yes No の考えを述べ合う職員たち



金座布団の少数意見をコメントをする職員



ゲームに関連したコメントを聞く職員たち